

1 趣 旨

教職をめざしている大学生・社会人が、実際の授業で役立つ指導法や、学級経営の基本を学ぶことで、将来の教員としての資質を高める。

2 ねらい

- (1) 実際の授業で役立つ指導法を学び、授業力を高める。
- (2) さまざまな事例から学級経営の基本を学び、児童生徒への対応力を高める。
- (3) 学校現場で求められる若い教員像を学び、教員としての心構えを知る。

3 日 程

- (1) 期 日 第1回：平成30年2月25日（日）～2月27日（火）
第2回：平成30年3月 4日（日）～3月 6日（火）
- (2) 参加者 100名（第1回 42名、第2回58名）
- (3) 対 象 教員をめざす大学生・社会人

1 日目 (2/25) (3/ 4)	○「志願票，志望動機，自己PRの書き方」 ○「個人面接対策」 ○「合格者に学ぶ教員採用対策」	講師：金沢大学 教授 松本 謙一 講師：金沢大学 教授 松本 謙一 講師：金沢大学 教授 松本 謙一
2 日目 (2/26) (3/ 5)	○「教育法規の要点」 ○「学校管理について・教員を目指す心構え」 ○「集団討論・場面指導」 ○「模擬授業対策①」 ○「模擬授業対策②」	講師：福井大学 准教授 大和 真希子 講師：金沢大学 特任教授 野村 豊 講師：金沢大学 教授 松本 謙一 講師：金沢大学 教授 松本 謙一 講師：金沢大学 教授 松本 謙一
3 日目 (2/27) (3/ 6)	○「模擬授業対策③」 ○「自然体験活動：野外炊飯（焼肉・焼きそば）」	講師：金沢大学 教授 松本 謙一 指導：交流の家職員

4 成果と課題

(1) アンケートによる事業評価

事業全体の満足度について、第1回は82.9%、第2回は88.9%の参加者から、「満足」の評価を得ることができた。

【参加者の記述より】

- ・同じ教員採用試験に合格するという目標をもった仲間と学び、情報交換し合うことで刺激をもらい、励まされた。自分が不安に思っているのと同じように他のみんなも不安や悩みがあるのだと分かり、少し自信がもてた気がする。
- ・一人ではなく、みんなで対策するということがなんと楽しく、深い学びを生むことなのかを体験できた。
- ・一番来てよかったと感じた点は、教育学部や教員養成系大学からの出身者が多く、自分の大学では、仲間同士で指摘されないことを言ってもらえたことである。

- ・「なぜ教育法規を学ぶのか」まで解説があり，それは，学校に勤める教師が知っておくべき規則，基本方針なのだと分かり，勉強する意欲が湧いた。
- ・志願票の書き方やアピール方法を一番悩んでいて考えがまとまらなかったが，この合宿を通して定まった。もう一度過去に書いた文章と合宿で書いた文章を照らし合わせて，さらに練っていききたい。
- ・講師の先生方の熱い思い，温かい励ましが本当に心に響いた。「教員は素晴らしい職業だ」「ぜひなっあってほしい」と力強く語ってくださったことがとても嬉しく，教員になることが不安でなかなか覚悟を決められなかった私の背中を力強く押ししていただけた。
- ・やはり，合格した人は，やるべきことをしっかりとマスターし，本番では緊張しないぐらい練習していることが分かった。本番まで悔いが残らないよう，全力で取り組みたい。

(2) 成果と課題

《成果》

- ・本事業を通して，教員になりたいと思う気持ちをさらに高めることができた。
- ・個人面接，集団討論，模擬授業を参加者同士で実施し意見を出し合うことで，仲間と高め合いながら取り組むことの大切さを実感できた3日間となった。
- ・志願票の書き方や，筆記試験の学習の仕方などを大学講師や，教員採用試験に合格した先輩から学ぶ機会を提供できた。
- ・養護教諭志望者や，教員養成系以外の大学生にとって，他大学の学生と共に学び，情報交換したことは，新鮮な学びであり，教員を目指すためのよい刺激となった。

《課題》

- ・養護教諭志望者への広報を行い，昨年度より養護教諭志望者の参加者が増えた。来年度は，養護教諭合格者を1日目の「合格者に学ぶ教員採用対策」に呼ぶなどし，より参加者に合わせた内容とする必要がある。
- ・昨年度、参加した先輩からの紹介で京都の大学からの参加者（石川，富山，福井出身）が増えた。参加者からは，大学を通じて案内があるとよいとの声があり，これらの大学への広報をする。
- ・模擬授業の時間や内容，面接官からの質問の傾向など、教員採用試験の実施要項には示されていない細かな情報を収集し，事業の内容に反映する必要がある。



「志願票，志望動機，自己PRの書き方」



「個人面接対策」



「集団討論・場面指導」



「合格者に学ぶ教員採用対策」



「教育法規の要点」



「模擬授業対策」